

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

No.133

令和7年度総会報告(収支報告)・・・・・・・・・・・・・・・・	2
WRV・役員の改選(再任)について・・・・・・・・・・・・・	3
会長就任のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	4
副会長新任のご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	5
油汚染鳥の洗浄を行う際の鎮痛剤使用による効果	6-7
「プラスチックゴミ対策に関する講習会」実施報告	8-9
令和6年度油等汚染事故対策水鳥救護研修報告	10
書籍紹介「はじめて学ぶ哺乳類」(山本俊昭 著)	11
事務局日誌	11-12

令和7年度総会報告(収支報告)

令和7年4月13日(日)に令和7年度総会がWRV・立川事務所にて開催され、全ての審議案件について承認されました。以下に、令和6年度収支報告・令和7年度収支予算を改めてご報告致します。

会計報告(特定非営利活動)

令和6年度収支報告書(令和6年1月1日から令和6年12月31日まで。単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	556,000	事業費	
事業収入	718,228	①傷病野生動物の救護と野生復帰	325,508
委託事業収入	8,552,678	②病性鑑定及び疫学調査	0
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	6,679,500
寄付金収入	48,072	④野生動物の傷病予防に関する事業	0
預金利息	978	⑤生物多様性の保全に関する事業	0
雑収入	0	⑥野生動物の救護施設に関する事業	0
収益事業会計繰入金	0	⑦他団体との交流	124,090
収益事業収入	233,130	⑧収益事業原価	20,710
		管理費	3,226,327
		租税公課(消費税)	588,800
当期合計金額	10,109,086	当期合計金額	10,964,935
当期収支差額	-855,849		
法人税等充当金	-70,000		
前期繰越収支差額	37,935,085		
次期繰越収支差額	37,009,236		

<令和6年度の主な事業実績>

- ・環境省水鳥救護研修センター業務請負事業(水鳥救護研修・情報整備事業等)
 - ・同請負事業による研修(年3回)及び京都府の協力による現地研修(京都市)の実施
 - ・日本獣医生命科学大学、帝京科学大学、東京環境工科専門学校等、特別実習の実施
 - ・傷病鳥獣救護活動、および診療カルテの集約、学会参加等
 - ・「ヒナを拾わないで!!」キャンペーンの実施(共催)
 - ・関係団体との事業協力および事業等への参加(本部、各支部)
 - ・国際協力(JICA研修の実施 等)
 - ・野生動物リハビリテーター養成事業(神奈川支部、大阪支部)
 - ・各地の研究会、委員会、シンポジウム等への参画(リモートを含む) —その他
- ※令和6年度はコロナ禍もほぼ終息したため、講習会やイベント等の開催が、ほぼ平時に
誓い状況に戻ってまいりました。

令和7年度予算案(令和7年1月1日から令和7年12月31日まで。単位:円)

収入の部	金額	支出の部	金額
年会費収入	570,000	事業費	
事業収入	720,000	①傷病野生動物の救護と野生復帰	340,000
委託事業収入	8,550,000	②病性鑑定及び疫学調査	20,000
補助金収入	0	③学会報告、会報、講習会、HP等	6,090,000
寄付金収入	100,000	④野生動物の傷病予防に関する事業	10,000
預金利息	0	⑤生物多様性の保全に関する事業	10,000
雑収入	0	⑥野生動物の救護施設に関する事業	10,000
収益事業会計繰入金	0	⑦他団体との交流	100,000
収益事業収入	240,000	収益事業原価	20,000
		管理費	3,000,000
		租税公課(消費税)	580,000
当期合計金額	10,180,000	当期合計金額	10,180,000
前期繰越収支差額	37,009,236	当期収支差額	0
		法人税等充当金	0
		次期繰越収支差額	37,009,236

WRV・役員の再任および新任について

本年4月に行われました令和7年度・WRV総会および理事会におきまして、正副会長を始めとする役員等の再任ならびに新任の承認がなされました。以下に、その名簿を掲載いたします。任期は2年となっておりますので、会員各位におかれましては、以後改めてよろしくお願い申し上げます。（それぞれ五十音順で記載）

会 長	小松 泰史（新ゆりがおか動物病院 院長）
副会長	加藤 卓也（日本獣医生命科学大学 准教授）
副会長	中津 賞（浅香山動物病院 顧問）
理 事	大窪 武彦（おおくぼ動物病院 院長）
理 事	小山 正人（高坂どうぶつ病院 院長）
理 事	田向 健一（田園調布動物病院 院長）
理 事	中川 清志（中川動物病院 院長）
理 事	新妻 勲夫（新妻動物病院 院長）
監 事	高橋 恒彦（新宿動物病院 院長）
監 事	町田 忠彦（町田家畜病院 顧問）

今回は、長年に渡り会長を務めていただきました新妻勲夫先生に代わり、小松泰史先生に新たな会長にご就任いただきました。つきましては、新任のご挨拶を頂戴致しましたので、次ページに掲載させていただきます。また新たな副会長として、加藤卓也先生にご就任いただきましたので、同様にご挨拶を掲載させていただきます。

なお、嘗てWRVの理事を務められ、今も各講習会等の講師をお願いしている金坂裕先生には、1月よりWRVの顧問にご就任いただいております。今後ともご指導賜りたくお願い申し上げます。

WRVでは、内外とも厳しい状況下ではありますが、これからも野生動物救護医療の充実と発展を目指し、野生動物の保護・治療に携わっていただけるような獣医師の先生方、および動物病院のスタッフの方々のご協力を、広く求めていきたいと存じます。

会員各位および関係者におかれましては、引き続きWRVの諸活動にご協力いただけるような方をご紹介いただければ幸いに存じます。

（WRV役員・事務局 一同）



会長就任のご挨拶

NPO 法人 野生動物救護獣医師協会 (WRV)

会 長 小 松 泰 史

2025 年 4 月 13 日開催の令和 7 年度総会・理事会において役員の新任、再任の承認が行われました。総会で新役員候補として理事 8 名、監事 2 名の再任が承認された後、理事会において理事互選により、新任の会長に小松泰史(新ゆりがおか動物病院院長)、副会長に加藤卓也先生(日本獣医生命科学大学准教授)、そして再任で中津賞先生(中津動物病院院長／浅香山動物病院顧問)が就任しました。理事は 5 名、監事 2 名が再任で承認されました。理事には新妻勲夫先生(新妻動物病院院長)、大窪武彦先生(おおくぼ動物病院院長)、田向健一先生(田園調布動物病院院長)、小山正人先生(高坂どうぶつ病院院長)、中川清志先生(中川動物病院院長)が再任されました。監事には町田忠彦先生(町田家畜病院顧問)、高橋恒彦先生(新宿動物病院院長)が再任されました。また、前会長新妻勲夫先生(新妻動物病院院長)は理事として引き続き会務にご尽力していただきますが、特に 17 年間の会長在任中、本会の発展に多大な功績をあげられたことから名誉会長に就任されることになりました。

私と野生動物救護獣医師協会(WRV)との関係の始まりは、1991 年 4 月 1 日に「東京野生動物救護獣医師協会」を東京都内で小動物病院を開業している獣医師有志が中心となって設立、その際に理事に就任した 34 年前になります。翌年 1992 年には、「野生動物救護獣医師協会」に名称変更をして全国組織になりました。初代会長は、東京都福生市にあるご自分の神社敷地内で保護施設を作り、長年にわたり野生動物救護活動を行っていた神主の野口泰三獣医師で、先生からは「命の大切さと環境保全の必要性」について救護活動を通して学ばせていただきました。

1999 年 9 月 30 日に、本会は NPO 法人野生動物救護獣医師協会(WRV)として法人認証を受け、特定非営利活動法人の活動として、傷病野生動物の救護と野生復帰、水鳥救護研修センター業務委託事業(環境省自然環境局)等が本格的に始まりました。第 2 代会長は須田沖夫先生、第 3 代会長は森田斌先生、第 4 代会長は前会長の新妻勲夫先生で、歴代の会長の下、私は理事職、副会長として働かせていただきました。

新執行部の任期は 2 年です。この期間中に会員各位、自然環境保全等に関係する個人や団体、環境省、都道府県等行政の皆様方との連携をより強化して本会が継続して発展すること、また、今後も更に社会貢献できるよう積極的な会務運営を行うことをお約束して、会長就任の挨拶といたします。



副会長新任のご挨拶

NPO 法人 野生動物救護獣医師協会 副会長

日本獣医生命科学大学 准教授 加藤 卓也

このたび、野生動物救護獣医師協会の副会長に就任いたしました、日本獣医生命科学大学の加藤卓也と申します。

私の所属する野生動物学研究室（旧・野生動物学教室）は1984年に創設され、昨年40周年を迎えました。これまでに初代教授の和 秀雄 先生、現教授の羽山 伸一 先生らの御指導の下、多くの卒業生が野生生物保全の現場等で活躍されています。私自身も外来動物アライグマの生態と対策を主な研究テーマとしながらも、所属学生らの研究指導補助を通じて希少種の保全、野生動物と人との軋轢、野生動物の感染症や化学物質汚染など多岐にわたる分野の問題解決の手法を学んでまいりました。野生動物救護の現場は学生時代から強い関心がありましたので、今回のご縁に感謝すると同時に身の引き締まる思いでございます。

私は現在、本学に加え、非常勤講師として麻布大学でも野生動物学を担当しております。両大学の学生を通じ、また、本学への進学を志望する受験生らの声から、野生動物救護への関心は高いことが認識できます。それは偏に、第一線で活躍されてきた皆様の姿が大きく影響していると考えております。しかしながら、大学として十分な教育研究プログラムが実施できているかということ、必ずしもそういう状況ではないことは喫緊の課題の一つです。短期的には野生動物救護の現場の方々との連携を強固にすることで、高い志を持つ学生に十分な教育を提供して彼らに次代の担い手となってもらうこと、そして中長期的には、国や自治体も含めた包括的な体制で、『野生動物の健康』を扱う教育研究の場を構築することを目指してまいりたいと思います。

野生動物が救護される背景には、その救護に至るまでの“原因”が存在します。それは時として当該生物種のみならず、生物多様性の危機につながりかねない、大きな問題の前兆となるものかもしれません。自然環境における何らかの異変をいち早く察知し、対策を講じるためにも、野生動物救護及びその意義を、更に社会に浸透させることの重要性は高まっています。今後とも、皆様にお力添えいただけますと幸甚に存じます。

簡単ではございますが、副会長就任のご挨拶とさせていただきます。

引き続き、何卒よろしくお願いいたします。

油汚染鳥の洗浄を行う際の鎮痛剤使用による効果

WRV 副会長／大阪支部長 中 津 賞

従来、油汚染鳥の洗浄を行う際には、身体検査や血液検査によって適合する個体を選抜しておりましたが、洗浄作業そのものは、対象となる野生の鳥にとって恐怖そのものと言えるかもしれません。

そこで、鎮痛剤を使用することによって一定時間の鎮痛状態を確保し、その間に手早く作業を進め、成果を上げることに関する初めてと言える論文を見つけましたので、紹介と訳出を試みたいと思います。本論は動物倫理にも叶う内容であると確信します。

<原文>

Comparison of Manual Restraint With and Without Sedation on Outcomes for Wild Birds Undergoing Decontamination

Cristin N. Kelley, Terra R. Kelly, Kylie Clatterbuck, Michelle C. Knapp, Julie Skoglund, Rebecca S. Duerr

[Author Affiliations +J. of Avian Medicine and Surgery, 38\(2\):67-74 \(2024\).](#)

<https://doi.org/10.1647/AVIANMS-D-23-00030>

Abstract

The decontamination process for plumage-contaminated wild birds, such as those affected by oil spills, is lengthy and involves manual restraint and manipulation of all body parts. Birds commonly react to this in ways that suggest they are extremely stressed (eg, struggling, vocalizing). We proposed to reduce stress during the wash process using sedation and hypothesized that the use of sedation would not negatively impact survival. Contaminated birds in need of washing were randomly selected to be either sedated (butorphanol 2 mg/kg IM + midazolam 1 mg/kg IM and flumazenil 0.1 mg/kg IM for reversal) or not sedated at 3 US rehabilitation centers over the course of 1 year. Response to sedation was rated on a scale of 0–4 with 0 as no effect to 4 as excessively sedate. Data such as cloacal temperatures at various time points, lengths of various portions of the wash process, preening behavior in the drying pen, and disposition were collected. No statistical differences were found between sedated and nonsedated birds for any of the data points collected, including survival. There was a significant association between birds with higher cloacal temperatures in the drying pen and with birds held longer in the drying pen with improved survival; however, these findings were unrelated to whether the birds were sedated. Our findings show that sedation with butorphanol 2 mg/kg IM and midazolam 1 mg/kg IM reversed with flumazenil 0.1 mg/kg IM can be used during the wash process for wild birds without adverse effects. Careful attention must be given to heat support for all birds while drying to prevent hypothermia.

<訳文および補足解説>

この研究は、油流出事故などで羽毛が汚染された野生の鳥類に対する除染プロセスについて調査したものです。除染プロセスは長時間にわたり、鳥の体全体を手で拘束・操作する必要があるため、鳥にとって非常にストレスフルな体験となります。研究者たちは、洗浄中のストレスを軽減するために鎮静剤の使用を提案し、鎮静剤の使用が生存率に悪影響を与えないという仮説を立てました。主な研究結果は以下の通りです。

1. 鎮静剤を使用した鳥と使用しなかった鳥の間で、生存率を含むどのデータにも統計的な差は見られませんでした。
2. 乾燥箱中での体温が高い鳥や、乾燥箱に滞在時間が長い鳥は、生存率が向上する傾向が見られました。ただし、これらの結果は鎮静剤の使用とは無関係でした。
3. ブトルファノール 2 mg/kg IM、ミダゾラム 1 mg/kg IM の混合注射で鎮静状態を得て、油汚染鳥を洗浄し、フルマゼニル 0.1 mg/kg IM により、鎮静からの回復を促進する今回の処方は、野生の鳥類の洗浄プロセス中に悪影響なく使用できることが示されました。
4. 低体温症を防ぐため、乾燥中のすべての鳥に対して慎重な保温が必要です。

この研究は、汚染された野生の鳥類の除染プロセスにおいて、適切な鎮静剤の使用が鳥のストレスを軽減しつつ、生存率に悪影響を与えないことを示唆しています。これにより、野生動物のリハビリテーションにおける鳥類のケア方法が改善されることでしょう。（※訳文は訳者による加筆あり）

【訳者注】

ブトルファノールは、ブリストル・マイヤーズ社が開発したモルフィナン型の合成オピオイド鎮痛薬である。

ミダゾラムはベンゾジアゼピン系の麻酔導入薬・鎮静薬の一つである。日本での商品名はドルミカムおよびミダフレッサ静注 0.1%。静脈内注射後、通常 10 秒から 2 分以内に効果が発現し、1・6 時間継続する。投与後の最大効果発現はおおよそ 10 分後である。

フルマゼニルはベンゾジアゼピン系薬剤(ミダゾラム)の拮抗薬で、ミダゾラムによる鎮静からの回復と呼吸抑制の改善に使用される。

■油汚染鳥の鎮静投与による除染作業時の鎮静剤量■

ベトルファールとミダゾラムは混合して IM

作業終了時にはフルマゼニルで覚醒を図る／体温監視が重要

ベトルファール 5mg/ml 2mg/kg/IM ミダゾラム 10mg/ml 1.0mg/kg/IM フルマゼニル 0.1mg/kg(1.0ml iv)

体重 250g	ブトルファノール(ベトルファール) 0.5mg(0.1ml)	ミダゾラム(ドルミカム) 0.25mg(0.025ml)		フルマゼニル 0.25mg(0.25ml)
500g	1.0mg(0.2ml)	0.5mg(0.05ml)		0.5mg(0.5ml)
750g	1.5mg(0.3ml)	0.75mg(0.075ml)		0.75mg(0.75ml)
1kg	2.0mg(0.4ml)	1.0mg(0.1ml)		0.1mg(1.0ml)
1.2	2.5mg(0.5ml)	1.25mg(0.125ml)		0.125mg(1.25ml)
1.5	3.0mg(0.4ml)	1.5mg(0.15ml)		0.15mg(1.50ml)
1.75	3.5mg(0.5ml)	1.75mg(0.175ml)		0.75mg(1.75ml)
2kg	4.0mg(0.8ml)	2.0mg(0.2ml)		0.2mg(2.0ml)

◎洗浄過程に入るまでの洗浄可能個体の選択は、従来の方法で厳格に行い、鳥らしく行動でき、KS 4 以上で、体温も 39℃近くを示している健康と診断される汚染鳥を選抜する。洗浄開始前 2 時間には十分に給餌するか、経管投与のよる強制給餌を実施する。その後で、本法による鎮静状態を得て、洗浄過程における鳥の恐怖・騒擾を抑制し、除染効果を早期に得ることができる。この方法は油汚染鳥ばかりでなく、全ての救護過程に入った野生動物の治療に際して適応でき、恐怖を与えることなく、また騒擾することもなく、順調に手当が進むことが期待できる。

「プラスチックゴミ対策に関する講習会」実施報告

WRV 事務局長 箕輪多津男

去る3月15日（土）に、環境省水鳥救護研修センターにて、WRVの主催、(公財)日本野鳥の会の協力により、標記の通り「プラスチックゴミ対策に関する講習会」を実施しました。本講習会は、昨年8月に開催された「水鳥救護研修センター運営協議会」の場で、委員となっておられる地元自治会の方から提案された要望をもとに具体化されたもので、現在国内外で大きな問題となっているプラスチックゴミをテーマに、それをより身近なこととして捉え、新たな対策行動を喚起していくことを主な目的としました。

こうした経緯から、今回は参加者の募集については地元の自治会を通して行っており、当日は、親子連れや高齢者を含めて20名あまりの方々にご参加いただくことができました。同時に、日頃からプラスチックゴミ対策に関わる活動を展開している神奈川県野生動物リハビリテーターにも協力を仰ぎ、当日は3名の代表の方々に会場に掛けつけていただきました。

実際の講習会の内容につきましては、最初に日本野鳥の会で長年に渡り海鳥類の調査・研究に携わり、またプラスチックゴミ問題や原発事故による影響とその対策等についても取組んでこられた山本裕氏より、「プラスチックゴミ問題と海鳥への影響」と題してご講演いただきました。

その中で、まず海鳥の形態や生理的な特徴、世界的な生息状況、洋上での暮らしや繁殖等に関わる生態、さらに餌生物の実態等について分かりやすく解説していただきました。次にプラスチックゴミ問題の現状について、世界的な排出量の推移や海洋中における急激な増加の実態、そして海鳥を始めとする様々な海棲生物への影響について、そのメカニズムを含め具体的な事例をもとにご紹介いただきました。中にはかなりショッキングな被害状況も披露され、現状の深刻さを物語っているようでした。最後に、プラスチックゴミを実際に排出している私たち自身のあり方について、ゴミを減らし、できる限り野外に出さないことを心掛け、責任ある行動を取ることが呼びかけられました。

続いて、神奈川野生動物リハビリテーターを代表して、1期生でおられる高橋真理氏に、「『野生動物リハビリテーター』としてのプラスチックゴミ対策に関わる活動」と題して、日頃から携わっておられる活動内容についてご講演いただきました。

そこでまず、日頃の活動の中で、放置された釣り糸や釣り針に絡まって保護される野鳥の姿や、それに関連して川沿いや海岸に「生活ゴミ」が多いことに気付き、現場における回収やゴミ対策のための啓発活動を展開してきたことが紹介されました。さらに普及啓発を目的として、横浜ベイサイドマリーナや国立科学博物館、港区立みなと科学館等において、海ゴミをテーマとする様々な展示活動も実施し、多くの方々の反響が得られたとのことでした。そして最後に、プラスチックゴミの国内における実態と、自然環境や生物に与える影響の大きさについて解説され、私たちが今できること、そして将来に向けてどのような行動を取るべきかということが示され、講演を締めくくっていただきました。

以上、二題のご講演に対し、参加者それぞれがメモを取りながら、熱心に聞き入っておられる様子が印象的でした。



講師：山本 裕 氏



講師：高橋真理 氏

講演終了後、今度は実際にプラスチックゴミ等の回収作業を行うため、体力的に無理な方を除き、参加者と関係者一同は浅川の河川敷に向かいました。

当初は小雨が降る生憎の空模様でしたが、現場に到着すると幸いにして雨もあがりました。そこで、参加者はそれぞれ用意してあった軍手を着用し、ゴミ回収用のトンゴやポリ袋を手に、一帯の回収作業に当たりました。回収作業は約40分間行いましたが、全員の分を一ヶ所に持ち寄り、最終的な回収量を計測したところ、廃棄されたプラスチックゴミ9.5kgを始め、鉄くず類や空き缶類等を含め、全体で12.7kgものゴミを回収することができました。予想以上に多くのプラスチックゴミ等が回収されたことに対し、参加者からは驚きの声も上がっておりました。まだまだ、身近なところに多くのゴミが廃棄されている実態を、改めて思い知らされた次第です。

終わりに、地元・日野市南平台自治会の寺井深雪会長と佐藤たくま副会長から閉会のご挨拶をいただき、無事終了となりました。今回は、プラスチックゴミというこれまでにない新たなテーマで講習会を開催しましたが、参加者各位の交流も含め大変有意義な結果が得られましたので、今後も新たな展開を期して活動を継続していければと思っております。

ご協力いただいたすべての関係者に、改めて感謝の意を表したく存じます。



ゴミの回収作業の様子



回収されたゴミの確認作業



南平台自治会の寺井会長と佐藤副会長

令和6年度油等汚染事故対策水鳥救護研修 実施報告

WRV 事務局 二階堂 仁美

令和6年度も油等汚染事故対策水鳥救護研修(環境省・請負事業)を開催しました。本年度は、現場救護リーダー向けの第1回・第3回を令和6年10月28日・29日、12月24日・25日に、行政担当者向けの第2回を11月20日・21日に実施しました。

鳥獣保護行政担当者をはじめ、動物園水族館関係者、獣医師、学生、ボランティア等の様々な立場の方々に全国からご参加いただくことができました。

令和7年1月22日には、京都市にある「kokoka 京都市国際交流会館」研修室にて、現地研修を開催しました。当日は京都府と周辺地域の行政担当者や、動物園関係者、獣医師等、関係各位にご参加いただきました。また本年度は、日本海鳥グループの藤田泰宏氏に、西日本における水鳥の生息状況を含めた「日本沿海の海鳥類について」の講義をご担当いただき、海上災害防止センターの萩原貴浩氏には、「油等流出事故の基礎知識」についてご講演をいただきました。WRVからは、箕輪事務局長が油等流出事故に備えた「事前準備と事故対応」についての講義を、大阪支部長でもある中津副会長が「油等汚染鳥の救護法」についての講義を、実際の油汚染事故現場の様子を収めたビデオを交えながら実施しました。

研修終了後も、参加者の方々が個々に、実際事故が起きた時どう動けるかなど、現時点での問題点など今後に向けてのお話をされていた様子で、大変有意義な研修会になったことと思われます。

今年度の研修にご参加頂いた方々には、研修で得られた知識、技術や人脈を、水鳥救護における体制づくりや現場での活動に活かしていただけますよう、願っております。

最後になりましたが、研修開催にあたり多大なご協力を賜りました、(一財)海上災害防止センター、日本災害情報センター、公益財団法人日本野鳥の会、さらに現地研修にご協力いただいた環境省近畿環境事務所をはじめ、京都府農林水産部、日本海鳥グループ等の関係者の皆様方に、心より感謝申し上げます。



現地研修での挨拶の様子



現地研修での講義の様子



実習風景

「はじめて学ぶ哺乳類」 (山本 俊昭 著)

本書は、日本獣医生命科学大学の獣医学部獣医保健看護学科において、保全生物学研究分野の教授を務めておられる山本俊昭先生がまとめられた、哺乳類に関して総合的に学ぶための入門書です。

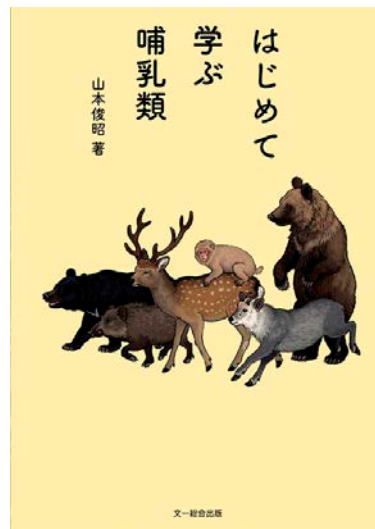
内容としてはまず、現時点における哺乳類の種数や分類、そして日本における過去から現在に至る生息状況等について語られます。続いて、動物界の中で哺乳類を特徴づける8つの特性について、骨格や臓器の解剖学的な所見、および各部位の形態や体構造をもとに分かりやすく解説されます。

次に、哺乳類の性別や年齢、あるいは繁殖を含めた様々な行動や生態、さらには実際の個体数等を知るための具体的な調査・研究方法について、事例とともに紹介されます。そして最後に、「哺乳類と人のかかわり」と題して、日本において人為的要因により絶滅したり減少し続ける哺乳類の置かれてきた状況や、逆に人の自然との関わり方の変化により、数が増えすぎることによる新たな軋轢や外来種の問題等が取り上げられ、そうした現状を前提として、ではいったい我々は将来に向け、地球上において共に繁栄していくためにはどのような生き方をしていかなければならないのかという、大きな課題が読者に突き付けられます。

山本先生は哺乳類だけでなく、北海道のフィールドを中心として魚類の生態についても長年研究されており、日獣大に獣医保健看護学科が設立された時から学科の発展に尽力されてこられました。私も約20年間に渡り、いろいろとお世話になってまいりましたが、通常の生態学だけでなく、対象動物のDNAの分析等においても確かな実績を上げてこられた先生です。

哺乳類をこれから学んでみようという初心者の方だけでなく、これまで何らかの形で哺乳類種の調査・研究、あるいは保護活動に携わってこられた方々にも、その存在を改めて見直すための絶好の機会として、本書を是非手に取っていただくことを強くお勧めする次第です。

(WRV 事務局長 箕輪 多津男)



「はじめて学ぶ哺乳類」 山本 俊昭 著

本体価格：2,200円(税別) サイズ：A5判 ページ：192ページ

発行日：2024年12月24日 出版社：(株)文一総合出版

◆問い合わせ先◆ (株)文一総合出版 〒102-0074 東京都中央区九段南3-2-5-4F

Tel) 03-6261-4105 Fax) 03-6261-4236

事務局日誌 2025.3.15～2025.6.15

=== 3月 ===

- | | |
|---|--------------|
| 15：プラスチックゴミ対策に関する講習会（水鳥救護研修センター） | 対応：箕輪、二階堂 |
| 15～18：第72回日本生態学会大会（札幌コンベンションセンター：Web 併用） | 対応：加藤 |
| 16：神奈川県野生動物リハビリーター(2級)第21期生認定式・歓迎交流会〔神奈川支部〕 | 対応：皆川、箕輪 |
| 17：神奈川県鳥獣総合対策協議会（万世橋会議センター）〔神奈川支部〕 | 対応：皆川 |
| 23：第21回春の動物園まつり（川崎市夢見ヶ崎動物公園）〔神奈川支部〕 | 対応：皆川 |
| 25：WRV ニュースレターNo.132 発行 | 対応：小松、箕輪、二階堂 |
| 26：練馬区獣医師会定時総会（ココネリ会館） | 対応：新妻、町田、倉林 |

27 : (公財)動物臨床医学研究所「山根義久前理事長 お別れの会」供花 (大阪・リーガロイヤルホテル) 対応 : 新妻、箕輪
 30 : 第 88 回日本野生動物医学会理事会 (Web 開催) 対応 : 加藤
 30 : 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応 : 皆川
 31 : 令和 6 年度「水鳥救護研修・情報整備業務」報告書 提出 (環境省) 対応 : 二階堂

=== 4 月 ===

01 : 令和 7 年度「ヒナを拾わないで!! キャンペーン」スタート 対応 : 箕輪
 01 : 夢見ヶ崎動物公園の魅力発信映像 (川崎市チャンネル)・インタビュー協力 [神奈川支部] 対応 : 皆川
 13 : 令和 7 年度 WRV 総会 (立川事務所) 対応 : 新妻、小松、加藤、小山、町田、高橋、小森、箕輪
 13 : 令和 7 年度 WRV 東京都支部総会 (立川事務所) 対応 : 新妻、小松、加藤、高橋、小森、箕輪
 14,27 : 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応 : 皆川
 19 : (NPO)丹沢自然保護協会 植樹 [神奈川支部] 対応 : 皆川
 24 : WRV 理事更新等申請手続き相談 (村重石原合同司法書士事務所) 対応 : 箕輪
 25 : 帝京科学大学アニマルサイエンス学科 1 年アニマルサイエンストピックス講義 (千住キャンパス) 講師 : 皆川
 28 : WRV 事業打合せ (東松山) 対応 : 新妻、箕輪
 28 : (公社)東京都獣医師会監査会 (東京都獣医師会会議室) 対応 : 小松、中川、高橋
 30 : (公社)東京都獣医師会理事会 (東京都獣医師会会議室) 対応 : 中川、高橋、小松

=== 5 月 ===

03,06 : 東京環境工科専門学校生・インターンシップ (犬猫・野生動物救護センター) [神奈川支部] 対応 : 皆川
 08 : 東京都獣医師会南多摩支部総会 (ホテルエミシア東京立川) 対応 : 小松、大窪、御厨
 10,18,22 : 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応 : 皆川
 10 : 令和 7 年度日本コウノトリの会・理事会 (Web 開催) 対応 : 箕輪
 11 : バードウォッチングイベント (横浜市立野毛山動物園) [神奈川支部] 対応 : 皆川
 15,16 : 東京環境工科専門学校生・野生動物救護実習 (東京環境工科専門学校) [神奈川支部] 対応 : 皆川
 22 : WRV 理事更新等申請手続き打合せ (村重石原合同司法書士事務所) 対応 : 小松、箕輪
 29 : 令和 6 年度 WRV 事業報告書等提出 (東京都庁・郵送) 対応 : 箕輪

=== 6 月 ===

01 : バードウォッチング (横浜自然観察の森) [神奈川支部] 対応 : 皆川
 03 : 東京都獣医師会南多摩支部全体会議 (聖蹟桜ヶ丘旭寿司) 対応 : 小松、大窪、御厨
 05,06 : 東京環境工科専門学校生・野生動物救護実習 (東京環境工科専門学校) [神奈川支部] 対応 : 皆川
 07 : 令和 7 年度日本コウノトリの会・総会 (Web 開催) 対応 : 箕輪
 07 : 令和 7 年度神奈川県野生動物リハビリテーター研修・更新講習会 (かながわ県民センター) [神奈川支部] 対応 : 皆川
 08 : (公社)東京都獣医師会総会 (都市センターホテル) 対応 : 中川、高橋、小松
 09 : WRV 理事更新等申請手続き最終確認 (村重石原合同司法書士事務所) 対応 : 箕輪
 12 : 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応 : 皆川

野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 133 2025.6.30 発行

発行 : 特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局 : 〒190-0013 東京都立川市富士見町 1-23-16 富士パークビル 302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人 : 小松 泰史 編集文責 : 小松 泰史 編集担当 : 箕輪 多津男
